

私にも
言わせて!
第97回

道は決めすぎず、波に乗って

産業医の目線から始まり、
地域に根差した公衆衛生へ



金沢市保健所
衛生指導課医長
北岡 政美

2008年金沢大学卒業。臨床研修の後、金沢大学大学院へ進み、公衆衛生学教室にて2016年博士課程修了。同年4月より金沢市保健所地域保健課に勤務。2020年4月より現職。日本医師会認定産業医、日本内科学会認定内科医、社会医学系専門医。

公衆衛生医師がどのように仕事をしていくのか、決まった道が見えにくく、自分がこの先どうなるか分からないことだらけです。分からないからこの面白さもありますが、どこに行ってもなんとかがやっていけるように、ここに来るまで何を感じ考えしてきたか、この機会に振り返ってみようと思います。

医師を志すきっかけ

金沢市は石川県の県庁所在地であり、人口46万人の中核市です。金沢市の公衆衛生医師は私を含めて4人、ご縁あって金沢市で勤務してからは、5年目となりました。当初は想定していなかった行政での仕事でしたが、今回のこの原稿を書くに当たり、保健所勤務にたどり着くまでのことを振り返り、今後のことを考えてみました。公衆衛生医師に興味を持つ方の参考になれば幸いです。

金沢市保健所で感じた
公衆衛生医師のやりがい

はじめは金沢市保健所の地域保健課感染症対策係に配属され、感染症監視員、医療監視員として、感染症対策や医療機関の医療監視に関わりました。電話対応や職場のさまざまな専門職員（人数が多い順に保健師、栄養士、診療放射線技師、薬剤師、医師）、事務職員との関わりの中で、保健所として市民や医療機関、その他各種機関と、どんなやりとりをしているかを知ることができました。

感染症においては、感染症発生動向調査がすべての基本であること、結核はいまだに感染症対策の中で大きな比重を占めていること、H1Vへの取り組みはまだ必要とされていることなどです。医療専門職が少ない社会福祉施設への感染症対策に対する支援や、集団発生時の対応も重要なところ。その他、研修会の企画・開催などもありましたが、中でも印象深いのは、感染症予防啓発を目的としたポスター・リーフレットの作成でした。今も市内で自分が携わったポ

将来を考えていましたが、担任の先生から人と関わる仕事を勧められたこと、子どもの頃から病院に行く機会が多く、ちょうどその頃に、病状について分かりやすく説明してくれた内科医師との関わりがきっかけとなりました。その頃、「病気が消えてなくなることはないし、一度かかってしまうと長く付き合う必要がある」と感じていたので、病気を治したい、というよりは、病気になるないように（予防）、それでも悪くならないように、と考えていました。

スターが掲示されているのを見掛けると思ってしまうこと、多くの人が信用のある必要な情報を届けることのひとつであり、醍醐味だと思えます。

また、感染症対応だけでなく、保健所として重要な災害対応に関する研修への派遣や、医療相談窓口の担当をしました。保健所へは、市民（患者）から医療機関への苦情や相談の内容が多く寄せられるため、市民の思いに耳を傾けるとともに、第三者的な機関としての役割を理解する機会となりました。医療機関と患者の間で起こる行き違いを少しでも減らすことが、結局は双方の利益となり、良い医療につながると感じました。そこで得た教訓を、医師会等の研修会でお話しする機会を頂けたことは大変貴重な経験でした。

食品衛生監視員として
研鑽中

この4月からは衛生指導課に異動し、食品安全対策室で食品衛生監視員としての業務に就いています。

産業医を知る

大学入学後は、さまざまな分野に興味を持って過ごしましたが、3年時のアルバイト（工場のピッキング）での出来事がきっかけで、働く人が健康であることが重要だと強く感じ、「医師として、働く人の健康に携わることとはどのようなことか?」という問いから、産業医学、産業医を知ることになりました。人生の多くの時間を費やす「労働」への働き掛けが、人の健康のために必要なのではと感じたことが、その後の方向性を決めました。自分の周囲に、産業医に関する情報は多くなかったため、「産業医なら、公衆衛生?」と、公衆衛生のセミナーなどに足を運び、さまざまなところから情報を収集するように努めました。

卒後研修は、地域に根差した医療と公衆衛生的な考え方を基礎とした。4月当初は新型コロナウイルス感染症の対応のため、地域保健課に応援に出ることもありましたが、この原稿を書いている現在（9月）は基本的に食品担当です。食の安全・安心を目的として、食品を扱う事業者に対する監視業務や、食中毒発生時の対応、食品衛生法に基づく許認可業務等に関わっています。食品衛生法の改正に伴い、変化のある時期なので、研修会の計画、実施も行っています。衛生指導課には、地域保健課とはまた異なる職種（人数が多い順に薬剤師、獣医師、栄養士、化学、事務職）が在籍しているので、各職種の視点や特性の違いを感じています。食品安全のほか、環境衛生、動物愛護の部署も有する課ですが、食や水、住環境の安全なくして、健康に生きていくことはできません。日本においてそのような「環境」が整っていることは、当たり前と感じるかもしれませんが、根本的な衛生を担う、当たり前を支えている部署としての重要性を感じています。異動して半年足らず、日々新しいことが盛りだくさんですが、ここ

とした医療機関で、初期臨床研修、糖尿病などの生活習慣病、透析などの人生の長い期間にわたって付き合いが必要がある疾患に関わる研修をさせていただきました。ここでの経験は、早期からの予防が重要であるという気持ちが強くなりました。大学院へ進学後は、複数の企業で産業医としての経験を積む機会を頂きました。これは「会社」というものを理解するために非常に良い経験となりました。研究室での疫学調査の立ち上げや産業保健に関する研究にも参加し、基礎的な考え方や技術の習得をすることもできました。大学院修了後の進路を考えていた時に、ご縁があり金沢市で働くことになりました。これまで述べた通り、産業医としての進路を考えていたのですが、自分のやりたいと思うことだけでなく、いろいろやってみたらよいのではないか、その波に乗ってみようと考えました。

でしか経験できないことや、出会いを大切に、よく見て、聞いて、感じて、学んで、考えていきたいと思えます。保健所内での仕事のほか、公営企業などで産業医を継続できていることは、ありがたいです。改めて振り返ってみると、医師を志した時点で考えていたことと大筋は離れず、学校や職場だけでなく、研修やセミナーなど出掛けた先でいろいろな人に出会い、助けてもらい、その時の波に乗りながらここまで来られたようです。

おわりに

自分一人ですること、できること、考えることには限界があり、道を限定することなく、いろんなことに飛び込んでみるのが、結局は公衆衛生医師としての糧となるのだと思います。さまざまなきっかけやご縁により、ここまで来られたことに感謝し、今後も大切にしていきたいです。これは公衆衛生医師に限ったことではない気もしますが、今までを振り返って考えたこと、ありがとうございます。